

素点欄に
記入し
ないこと

素点番号

素点

I

--

II

--

III

--

1/2

令和五年度
入学試験問題
解答用紙

国語

国語総合・現代文B・古典B

第一問

問一	a 遭遇	b 真剣	c 葛藤	d 措定	e 脅威
----	------	------	------	------	------

問二 現実の社会生活とその言語空間とが内密に触れ合うこと

(以上二十五字)

問三 中性的な言表

問四 他者性

問五	近	よ	自		
	代	う	己		
	国	の	の		
	民	内	内		
	国	なる	なる		
	家	る	る		
	の	他	他		
	な	者	者		
	か	の	の		
	で	あ	あ		
	の	り	り		
	国	よ	よ		
	語	う	う		
	体	を	を		
	系	自	自		
	に	覚	覚		
	埋	さ	さ		
	没	せ	せ		
	す	る	る		
	る	も	も		
	自	の	の		
	己	だ	だ		
	の	か	か		
	あ	ら	ら		
	り	。	。		

(以上八十字)

問六

上下的、直接的二項関係の連鎖・集合から構成されている日本社会の構成そのものを内容としている敬語法を無自覚に駆使している自分自身への疑いのこと。

問七

1	異	の			
	質	内	内		
	な	なる	なる		
	る	異	異		
	者	質	質		
	で	な	な		
	あ	も	も		
	る	の	の		
	外	を	を		
	国	発	発		
	人	見	見		
	と	し	し		
	の	、	、		
	遭	自	自		
	遇	己	己		
	で	像	像		
	あ	を	を		
	る	揺	揺		
	ば	る	る		
	か	が	が		
	り	す	す		
	か	も	も		
	、	の	の		
	自	。	。		
	己	。	。		

(以上五十字)

2
日本語教育において日本語の敬語は外国人にとって複雑極まりないことを示すことで、その敬語を決して間違えない日本人に、近代日本語の体系の中にいかに埋没しているかを明らかにしてくれらう。

第二問

問一

①	意志の助動詞「べし」の終止形	②	打消推量の助動詞「まじ」の終止形	③	完了の助動詞「ぬ」の連体形
④	婉曲の助動詞「ん」の連体形	⑤	打消の助動詞「ず」の已然形		

ア どうせ同じことなら

イ どうう見ても

ウ 物足りなく

エ 筆にまかせて書いたというもの

問三

源氏物語

問四

1

あの社の外觀図はあらかじめ柱一本を省いて

2

外觀図通りには建てられない不完全な図であることを見抜き、社を建立できる工法を身につけている高い技術を持った匠を見つけるため。

問五

虚

をもて実を説く所

問六

1

大酒飲みで好色な男を褒める一方で、色を好まないのに越したことはなく、酒によって身を減ぼすこともあるなどと、あえて相反することを書く方法。

2

一見矛盾しているようだけれども、一面的な見方に偏ることなく書いているのは、格別に思慮分別のある書き方だと高く評価している。

問七

虚	事	ら	書
の	実	、	物
中	だ	書	と
に	け	物	い
あ	に	を	う
る	こ	読	も
真	だ	む	の
実	わ	際	は
を	っ	に	真
見	て	は	実
抜	し	偽	が
け	ま	り	述
な	う	で	べ
く	と	あ	ら
な	融	る	れ
っ	通	か	て
て	が	ら	い
し	利	と	る
ま	か	い	だ
う	な	っ	け
こ	く	て	で
と	な	排	は
。	っ	除	な
	て	し	い
		、	か

(以上百字)

第三問

問一

(一)

未_下嘗_中有_二外_二乎 此法_一以_二成_二就_二其材徳_一者_上也

(二)

此法 愛惜光陰

其材徳 天資

問二

陶元亮の詩、富蘭格令の言葉、突厥人の諺はどれも時間の大切さをうまく表現しているから。

問三

オ

問四

ウ

問五

④

書き下し老の将に至らんとするを知らず、
現代語訳 老いていくことに気づかず、

⑤

書き下し 其れ然らずや。其れ然らざらんや。
現代語訳 なんとそのとおりではないか。/ そうでないだろうか、いやそのとおりだ。

問六

力	時
し	を
、	大
時	切
を	に
忘	し
れ	つ
る	つ
ほ	ど
ど	ど
学	ん
問	な
に	時
没	も
頭	心
す	の
べ	ま
ぎ	ま
だ	に
。	努

(以上四十字)